

トビウオ通信 (H20 第2号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成19年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業（かけまわし）

1隻当たり漁獲量、金額ともに平年を上回る

島根県の小型底びき網漁業（かけまわし）56隻*の平成19年漁期前半（平成19年9月1日～12月31日）の総漁獲量は3,191トン、総水揚げ金額は11億8,806万円でした。1隻当たり漁獲量は57トン、水揚げ金額は2,121万円といずれも前年並み（54トン、2,188万円）でしたが、平年（過去10年間の平均値40トン、1,827万円）を上回りました（図1）。漁期当初から大型クラゲが来遊しましたが、小底漁場では比較的少なかったこと、出漁日数が前年並みに推移したことに加えて、主要魚種が好調だったことが主な原因と考えられます。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は57隻ですが、統計は56隻分の集計です。

ソウハチ好調！

主要魚種であるソウハチの1隻当たり漁獲量は10.3トンで、前漁期の1.7倍、平年の3倍の漁獲がありました。一方、ムシガレイの1隻当たり漁獲量は2.2トンで、平年を1割下回りました。また、近年安定しているヤナギムシガレイの1隻当たり漁獲量は平年を2割上回る0.7トン、メイタガレイの1隻当たり漁獲量は平年の2倍にあたる2.1トンでした。カレイ類は全体的に好調に推移しました。

ケンサキイカ低調

ケンサキイカの1隻当たり漁獲量は0.9トンで、前漁期、平年の5割に留まりました。また、ヤリイカの1隻当たり漁獲量は1.5トンで、平年を1割上回りました。

アンコウ・キダイ好調！

ニギスの1隻当たり漁獲量は6.5トンで、前漁期を1割下回りましたが、平年を2割上回りました。キダイの1隻当たり漁獲量は6.1トンで、前年を1割、平年を4割上回りました。近年高水準で推移しているアンコウの1隻当たり漁獲量は7.7トンで、平年の2.5倍以上の漁獲がありました。また、アカムツの1隻当たり漁獲量は0.9トンで、前年の4割、平年の8割程度の漁獲に留まりました。また、マダラの1隻当たり漁獲量が1.4トンと、前漁期（1.4トン）に引き続きまとまって漁獲されました。

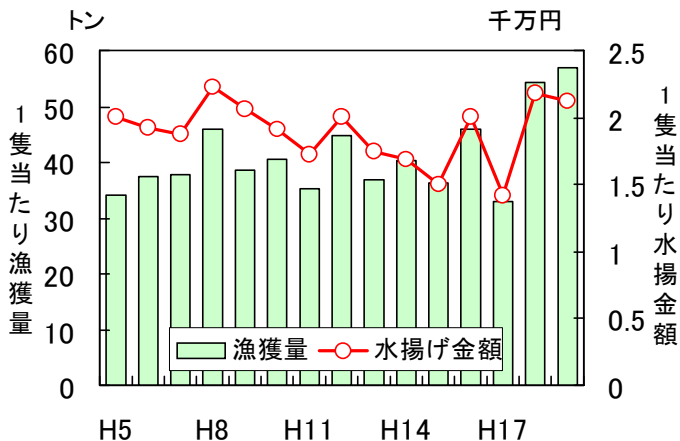


図1 小型底びき網漁業における1隻当たり漁獲量・水揚げ金額の動向(漁期前半)

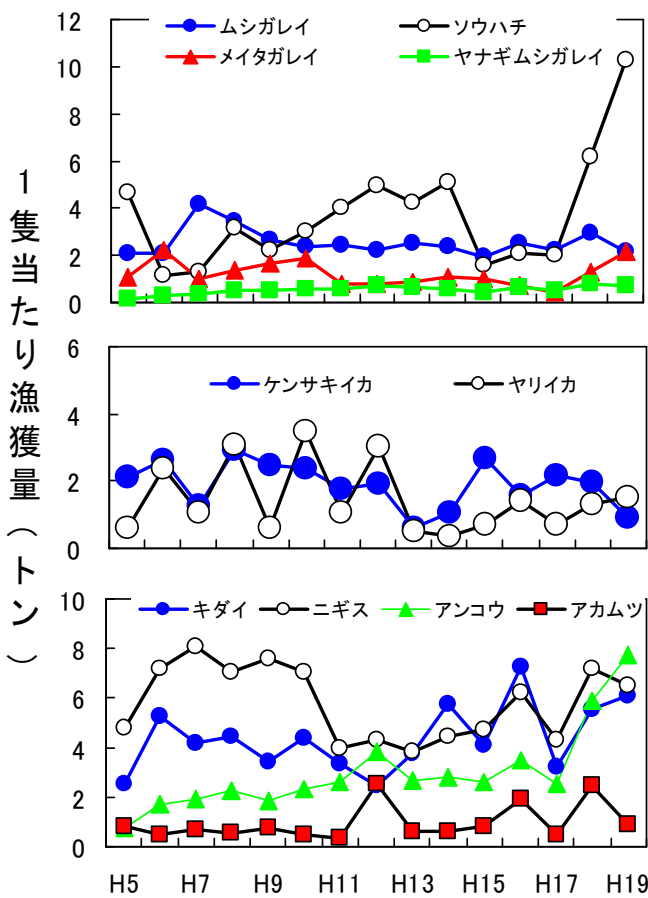


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

沖合底びき網漁業（2 艘びき）（県西部）

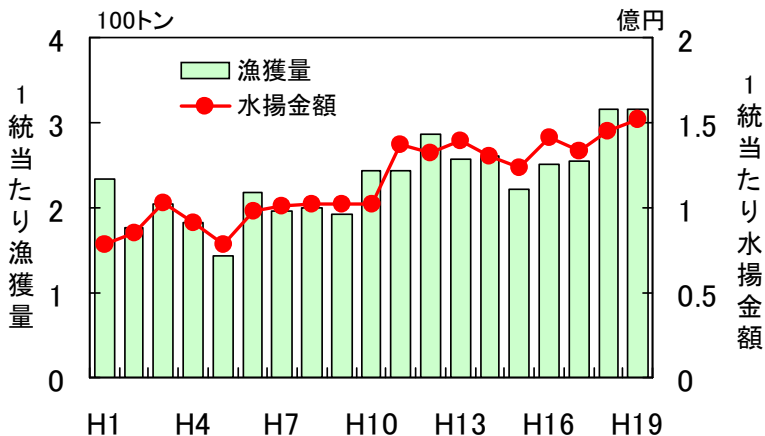


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1ヶ統当り漁獲量・水揚げ金額の動向(漁期前半)

1 統当り漁獲量・金額は前年並み

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数 5 ヶ統）の平成 19 年漁期前半（平成 19 年 8 月 15 日～19 年 12 月 31 日）の総漁獲量は 1,581 トン、総水揚げ金額は 7 億 5,956 万円でした。1 統当たりでは、漁獲量 316 トン、水揚げ金額 1 億 5,191 万円で、ほぼ前年（316 トン、1 億 4,558 万円）並みで、平年（過去 10 年平均 253 トン、1 億 2,857 万円）を 2 割程度上回りました。

主要魚種であるカレイ類が堅調だったことに加え、アンコウが好調だったことが主な原因と考えられます。

カレイ類堅調！

主要魚種であるムシガレイの 1 統当たり漁獲量は 58 トンで、前漁期を 1 割下回ったものの、平年を約 3 割上回りました。ムシガレイは前漁期に引き続き好調に推移しました。

近年減少が続いていたソウハチですが、小型魚が中心ながら、まとまって漁獲されました。1 統当たり漁獲量は 37 トンで、前年、平年の約 3 倍の漁獲がありました。また、ヤナギムシガレイの 1 統当たり漁獲量は 16 トンで、ほぼ前漁期並み、平年の 1.3 倍の漁獲がありました。小底と同様にカレイ類は概ね堅調に推移しました。

イカ類低調

ケンサキイカの 1 統当たり漁獲量は 13 トンで、前漁期の 7 割、平年の 6 割に留まりました。一方、ヤリイカの 1 統当たり漁獲量は 6 トンで、前年、平年の約 2 倍の漁獲があったものの、低水準に留まりました。イカ類は低調に推移しました。

アンコウ好調！

アナゴの 1 統当たり漁獲量は 17 トンで、平年並みでした。アンコウの 1 統当たり漁獲量は 35 トンで、好調だった前漁期並みの漁獲がありました。また、キダイの 1 統当たり漁獲量は 23 トンで、好調だった前漁期を 1 割下回ったものの平年の 1.4 倍の漁獲がありました。アカムツの 1 統当たり漁獲量は 5 トンで、前年の 3 割、平年の 5 割の漁獲に留まりました。前漁期の好漁は卓越年級が発生したものによると考えられますが、漁獲の主体が産卵を行う前の 1 歳半～2 歳半の若魚でした。本魚種は、十分な親魚資源量に達する前に漁獲されてしまい、資源回復が阻まれ、その後低迷するといった状況が繰り返されています。ニギスの 1 ヶ統当りの漁獲量は 13 トンで、前漁期、平年の 8 割程度の漁獲に留まりました。

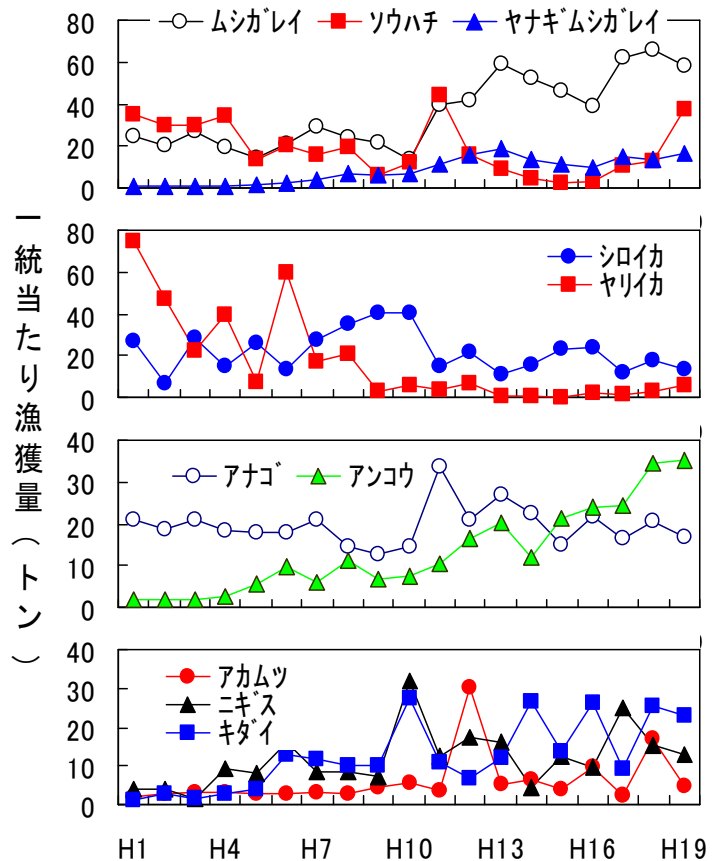


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向(8月～12月)